勢和小学校だより

明日も行きたくなる勢和小
～楽しく笑って過ごせるように、目標に向かってあきらめず、やって、考え、工夫しよう～

発行日：令和8年11月16　　第13号

広がる平和への願い、広がる協力の輪



５年生が世界平和を願い、広島に折り鶴を送る「千の和（羽）プロジェクト」が、11月2日から始まっています。校舎内に設けられた箱には、全校の子どもたちが作ったたくさんの折り鶴が集まり、「折り鶴のお風呂みたい」と話す子もいました。

箱いっぱいに集まった折り鶴は、全校みんなの協力の証です。「折り鶴を折って広島に送りたい」と呼びかけた5年生に、「協力するよ」と応える他学年の子どもたち。学年を越えて一つの目標に向かって取り組む姿に、勢和小の子どもたちの温かさを改めて感じています。

思いやりと気配りが光った修学旅行



10月29日、30日の2日間、6年生は修学旅行に出かけました。

ガイドさんの説明を熱心にメモしたり、バスの乗務員や旅館のスタッフに「お願いします」「お世話になります」と自分から挨拶したりする姿が見られました。また、食事の際には友達の分までお茶を入れたり、食事後にはみんなが使った座布団を片付けたり、雨が降ってきたときにはガイドさんに傘を差し出したりと、周囲への気配りも随所に見られました。

楽しい思い出をつくるだけでなく、約束やマナーを守り、周囲の人を思いやって行動する姿に、6年生の成長を感じた修学旅行でした。

「ほめる」という凶器

先日実施した後期始業式では、6年生の浦林茜さんが、青少年健全育成会の「少年の主張」作文「『ほめる』という凶器」を披露しました。

容姿について相手に話すことは、傷つけることにつながる場合があります。例えば、褒めるつもりで「背が高くていいね」と言っても、相手は背が高いことを気にしているかもしれません。褒めているつもりの言葉が、実は相手を傷つけているのではないか、という内容でした。

浦林さんは、作文の中で、人から言われて傷ついた経験や、傷ついても「おう」としか言い返せなかったことを振り返るとともに、自分も知らず知らずのうちに相手を傷つけていたかもしれないと考えていました。

「マイクロアグレッション」をご存じでしょうか。悪意や自覚がないまま、日常の何げない言葉や態度によって相手を傷つけてしまうことを指します。インターネットで検索すると、さまざまな事例が紹介されています。

差別や偏見は、必ずしも悪意から生まれるとは限りません。自分に悪気がなくても、相手を傷つけてしまうことがあります。何げない一言が相手に与える影響を考え、感情や思いのままに言葉を発することの危険性を浦林さんの作文から改めて認識しました。

一人ひとりが言葉の使い方を振り返り、誰もが安心して過ごせる環境をつくっていきましょう。

学校評価へのご協力ありがとうございました

10月19日より回答を受け付けていた学校評価は30日で〆切ました。調査にご協力くださりありがとうございました。調査結果については、追って学校だよりでお知らせします。また、早々に対応が必要と判断した場合には個別でお問い合わせをするなど対応いたします。